第１３回　積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と予防保全に関する検討委員会

議事概要

■　第１３回検討委員会：令和８年１０月２３日（金）

【議　題】
・耐久性の高い舗装を設計・施工する技術について
・効果的な補修技術について

【議事概要】
○　事務局より、各種手引き（案）や積雪寒冷地に対応した舗装技術の現場実証および追跡調査結果、効果的な補修技術について報告し、質疑応答を行った。議事内容は以下の通りである。

◇耐久性の高い舗装を設計・施工する技術について
- ■ 北海道型ＳＭＡの高耐久化に関する技術について、標準的な施工方法、品質低下を防止する対策の位置付けを整理し、「北海道型ＳＭＡの施工の手引き（案）」の記載内容を精査することが望ましい。
- ■ 積雪寒冷地におけるポットホールの発生抑制には、縦継ぎ目からの浸水防止が重要であり、材料の改良に加え、施工機械や施工方法の改善による耐久性の向上が望まれる。
- ■ フォグシール工法について、追跡調査により損傷進行を抑制する効果が確認されており、ポットホール等の発生抑制が期待される。また、試験施工を実施し、引き続き効果検証を行うことが望ましい。
- ■ 試験施工および追跡調査結果について、各社の報告書式が異なっていたことから、比較・確認しやすいよう統一様式を確認した。
- ■ 「積雪寒冷地に対応した新たな舗装技術に関する手引き（案）」について、損傷形態に応じた適切な技術を選定できるよう体系的に整理し、委員からの意見を踏まえて内容の充実を図る。

◇効果的な補修技術について
- ■ 冬期のポットホール等の応急補修に対応するため、低温カンタブロ試験（５℃）を用いた常温合材の評価方法および試験施工事例を整理し、手引き（案）の作成を進める。

以上